

授業概要

英語という言語が、音声、音韻・形態・文法・意味・歴史的変遷の面でどのような仕組みになっているか考えることをテーマとし、その研究の概要を理解する。現代の国際共通語としての英語についても (World Englishes という観点から) 音声、音韻、形態、統語、意味の観点からその特徴と仕組みを記述し、その仕組みを説明することを目指す。いうまでもないが、英語を含めた言語の研究では、共時的研究(同時代の英語、現代の英語)と通時的研究(歴史的研究)は区別する/混同しないことは Saussure の言を持ち出すまでもないが、心に留めておくべきである。

授業計画

第 1 回	英語(言語)学とは何か ― 言語学の一領域として自然科学の方法論を取り入れた学問
第 2 回	英語の歴史的変遷
第 3 回	英語の音声の仕組み
第 4 回	英語の音韻論
第 5 回	英語の語の構造(形態論)
第 6 回	英語の語形成(形態論)
第 7 回	英語の文法(統語論) (1) ミニマリスト・プログラム
第 8 回	英語の文法(統語論) (2) 認知文法、動的文法理論
第 9 回	英語の語の意味(語彙意味論)
第 10 回	英語の文の意味
第 11 回	指示の語用論
第 12 回	コミュニケーションの語用論
第 13 回	言語習得
第 14 回	脳科学と言語: 英語で I grabbed the cup. と言う時、感覚運動系で何が起る? (Knott 2012)
第 15 回	国際共通語としての英語: シンガポール、フィリピンなどを例として
第 16 回	定期試験

到達目標

英語という言語が、音韻・形態・文法・意味・歴史の面でどのような仕組みになっているか考えることをテーマとし、その研究の概要を理解する。

履修上の注意

英語という言語がどのような仕組みになっているかについて、その規則性や原理を探るのが英語学の研究である。そのことを認識して、真面目に取り組んでもらいたい。授業には英語の資料や文献を使用する。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

予習・復習

配布された資料や文献は基本的に、英語で書かれたものであるため、英和辞典を用いて語彙、表現を事前に調べておくこと(復習の方に重点を置いてよい)。毎回、授業の初めに、前回のレビューとして各自がとったノートに基づいてサマリーを書いてもらう。

評価方法

筆記試験(80%)、テーマごとのまとめレポート(20%)

テキスト

ハンドアウト・印刷教材を使用する。